

4度目のあおぞら市に出店

いも餅など実演販売



賑わうふるさとネットのテント

ふるさとネットは、5月16日に新宿区の神楽坂商店街で開催されたあおぞら市に参加。明日葉など三宅島の特産物の販売や新報の配布など行った。当日会場は天候に恵まれ、多くの人で賑わった。

ふるさとネットがあおぞら市に参加するのは4回目。今回は、明日葉、くさや、たけのこに加えて、初出品となるいも餅も販売した。また前回好評であった実演販売も行い、明日葉のてんぷら、サータアンダギーや揚げいも餅も販売した。

あおぞら市終了時には、くさやが多少残ったものの他の商品は完売した。今回も実演販売が好評で、揚げいも餅などは、おやつとして買いその場

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
(本部) 〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

〇島市

7月4日(日) 11時～14時
漁協駐車場

ふるさとネットでは島市に参加するために商工会に申し込んだ。赤飯などを販売する予定なので、ぜひお立ち寄りください。

〇DTPA 向上高校生来島

8月7日(土)～10日(火)
30名がボランティア活動や新報の取材等を実施予定。

〇ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

事務局：あすなろ保育園内

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話・FAX 03(3963)5697

担当 横山美紀事務局長

千客万来 ネットのテントによこそ

「島へ。」の編集長がエール

テントには毎回素晴らしい人が立ち寄ってくれる。フランス人でもとてもエレガントなドラ・トージンさん、(元NHKテレビ『フランス語会話』に出演、著書の発行人尾嶋四郎さ

ん。「編集後記」で私たちを励ましてくれた。(同誌7月号では伊豆諸島を特集、三宅島が表紙、窪寺先生なども紹介。ぜひ一読を！・780円)

ボランティアの若い女性たちが一生懸命道行く

人に声をかけて、明日葉のてんぷらやくさを販売していた。とても活気に溢れていて、根気よくみんなで復興に努力してきた三宅島を象徴しているかのようであった。もう10年になろうとする噴火災害から、再生にもうひと踏ん張りというところまで来ているようだ。美しい自然が戻りつつある三宅島にエールを送りたい。

評論であった実演販売も行い、明日葉のてんぷら、サータアンダギーや揚げいも餅も販売した。

で食べる人がいたり、てんぷらは夕御飯のおかずとして買っていったりする人もいた。

リピーターから嬉しい声
あおぞら市では、回を重ねるごとに商品の販売方法などの改善を行ってきた。その結果、三宅島

物産展は神楽坂に定着してきているようで、訪れたお客さんからは、「あおぞら市ではいつもこのおいしい明日葉を買っています」や、「今回は自分で焼けるくさやがあったので買いました」など、多くのリピーターの声が聞かれた。

日本復興学会で報告

島民の窮状が明らかに

★島外避難から帰島まで

- 村・島の将来の不安 ■コミュニティの制約
 ■島外で不慣れた生活、不安や焦りなどから、健康が悪化

村や島の将来が不安	47%
島の知人に会う機会が減った	44%
海や川が見えなかった	37%
健康が悪化した	35%
島内の家などの様子が不明	27%
生活の見通しがたたなかった	23%
家族が別々に暮らしていた	20%
世間から三宅島のことを忘れられていくようで不安だったこと	19%
適当な仕事につけなかった	18%
住んでいた町に馴染めなかった	12%

※H17年第1回帰島後調査・サーベイリサーチセンター調べ

夫婦別居世帯が3割

5月14日に開催された日本復興学会で、三宅復興に関する調査結果が発表され、帰島を断念した人が増えてきた過程などが明らかにされた。

日本災害復興学会主催「帰島民の意識（三宅島2000年噴火の帰島調査より）」が5月14日に、関西学院大学丸の内キャンパスで行われた。このイベントに、ふるさとネットからは酒井一豊副会長と横山美紀事務局長が参加した。

2000年噴火により全島民が避難を強いられ、住み慣れた故郷を離れ、長期にわたって避難生活を送った三宅島が、どのように復興を果たしていったのかを、株式会社サーベイリサーチセンターが05年～08年の間に4回調査。その結果を中島良太氏が報告し、参加者が活発な意見交換を行った。

年金生活者が大半

生活再建の面でも、高齢化が進んだことから「収入は年金のみ」が増加。農林業、建設業、観光業は軒並み減少している。そのため生計の回復は依然厳しい状況で、生活再建が果たせないため

に馴染んだためという結果が分かった。そのために、夫婦別居をしなくてはならない世帯が3割もいる。帰島の意志に関しても、調査を重ねるごとに「帰島しない（であるう）」という割合が増加し、「仕事があれば」など条件付きでも、帰島の意志を示す人の割合は年々低迷している。

ネット事務局長 横山美紀
10年の経験を今後

今回の会合に参加させて頂き、改めて自然災害の恐ろしさ、復興までの島民の様々な気持ちや厳しい現状を、データより知ることができた。

帰島しないと決めた方々の中でも、住民票を移さないと都営住宅で暮らせないこともあり、仕方なく三宅島に戻ることを諦めた方や生活のために親子、夫婦離れ離れで生活せざるを得ない方も多くいることを思うと、寂しい気持ちになる。

2000年噴火から全島避難指示解除まで10年という長きに渡る避難生活で得た経験が、今後の自然災害時の教訓として生かされるよう、私たちが三宅島のことを忘れないでいることも、大切なことのひとつなのかもしれないと感じている。

また、コミュニティの問題として、避難前は5つの集落ごとの集まりが主であったが、避難時には皆バラバラで、隣の家は「別の集落の人」であった。避難するまでは島外に出たことがない人もいたため、そのような状況に不安や焦りを感じている人が多かった。それでも、全島避難指示が解除されて島に戻るまではお互いに支え合い、各避難先で会合も開かれ、コミュニティが形成されていたが、帰島後は生活に追われて集まることが難

しくなり、皆バラバラになつてしまっている。若い世代への期待も最近の島の状況として、島外からも民宿などで働きに来る若い人も増えてきており、島外民を受け入れることが増えているとの話があった。例大祭が10年ぶりに復活したことで、昔ながらの島の習慣を若い世代が知るなど、三宅島の魅力を伝えることにも繋がっている。若い世代が増えていくことで、「地区ごとのコミュニティ」だけではなく、新しい三宅島のビジョンがみられるのでは」と期待をする意見もあった。

菅澤邦明さん 神戸から音楽の贈り物

被災した子どもたちのために



子どもたちが花束を贈呈

全島避難中から支援を頂いていた兵庫県長田の皆さんが、寄付を募って素晴らしい贈り物を届けてくださった。5月31日には伊豆・神戸老人クラブ合同演奏会村役場で社協会長・事務局長等を訪問。6月1日には早朝から三宅保育園、小・中学校で演奏し、生徒と校歌を合唱。島内見学もせず帰途に着いた。演奏会で佐藤就之神着老人クラブ会長は、「肉親を亡くすなど被害を受けた身で、今日まで三宅を支援してくれる方々の『爪の垢を煎じて飲む』の例えのごとく、帰島できたから終わりではなく支援のお返しをしよう」と感謝を述べた。この面では、この演奏会を企画した菅澤邦明さんに寄稿していただいた災害への思いを紹介する。

三宅島の噴火と、その後の全島避難のことが伝えられる中で、この災害が島の人たちに与える影響は、伝えられている以上のものであることを思う。

わされていました。1995年1月17日の兵庫県南部大地震の死者は5千480人でした（後に、関連する死者も加え6千434人になりました）。

文字通り生き残った人たちのために避難所、応急仮設住宅、災害復興公営住宅で

の生活は厳しく、中でも高齢の被災者の「孤独死」は、今も起こり続けています。大きな自然災害が、その時で終わりにならないという思いが、兵庫県南部大地震ボランティアセンター、被災者生活支援センターの、その後の活動に繋がってきました。

2000年の三宅島の噴火と全島避難では、東京都あきる野市秋川高校の寮で、避難生活を送ることになった小・中、高校生のことが、気がかりでした。その年のクリスマス、その年のクリスマス、私たちのさ

避難中にも秋川高で

なつて、ささやかな贈り物を届けることを、今でも続けさせてもらっています。

09年8月の、兵庫県佐用町の豪雨水害の後、その年のクリスマス頃に佐用町の子どもたちに音楽を届けました。時を同じくして、三宅島の子どもたちにも「音楽を届ける」という提案を、三宅小、三宅中、そして三宅保育園が受けて下さって、それが10年6月1日に実現することになりました。

安永早絵子さんは、三宅小の音楽室にある打楽器を使って、城村奈都子さんのピアノと共演されました。二人の本気の生の演奏に、小・中学生が夢中で聞き入っていたことを、子どもたちのその時の表情から確信しています。

挨拶の為の短い時間を頂いた折に、お土産の手作りの時計と共に子どもたちに伝えたかったのは、「生きていれば、必ず朝が来ること、必ず誰かが見ていてくれること」でした。

菅澤さんプロフィール

兵庫県南部大地震ボランティアセンター所属、兵庫県私立幼稚園協会理事、国際竹とんぼ協会会員

演奏者紹介

・安永早絵子さん

パーカッション担当、大阪音楽大学出身、在学中よりソロ、アンサンブル、吹奏楽、オーケストラで活躍

・城村奈都子さん

ピアノ担当、武庫川女子大学出身、在学中よりテノール歌手の畑儀文氏等の伴奏を務めるなど活躍

さやかな思いを込めて、贈り物を届けることになりました。その始まりに

アカコッコ短信

5周年行事9月に

○三宅島帰島5周年記念行事
(避難中にお世話になった方の招待と視察)

- ・9月4日(土) 記念式典、島内視察
- ・5日(日) 島内視察、上京招待者200人程度(避難先からは60～70人程度)。支援者と全島民参加と交流で感謝を表す「第10回ふれあい集会」方式で開催を実現させよう。村役場、関係者の努力と再考を促したい。

(問い合わせ: 社協 ☎ 5-7051)

○ギャラリーカフェ・カノン開店
皆さんご存じの穴原甲一郎先生の娘さんの詩野さんが喫茶「カノン」を開店した。先生の美しい絵と手作りお菓子と音楽で…待望の本格カフェ誕生。夏休みのお客さまとリッチな気分はいかが。伊豆岬入口バス停から1分。

営業時間 15時～18時半頃
定休日 水・木曜日(祝日営業)

○DTPAの本紙発行を報道
神奈川新聞(2月18日)、朝日新聞(4月19日神奈川版)5段囲みで大々的に伝えた。

ふるさとネット、およびそのお手伝いをしているDTPAでは、ふれあいコールや訪問活動を継続している。このような活動を通じ、高齢化が進む未帰島者に島の状況を伝えとともに、支援を続けたい。



訪問活動を担当しているDTPAのメンバー

事務局では、ふれあいコールを2軒に実施。立川市在住のAさんはほぼ毎日通院をしており、変わらぬ毎日を送っていますよ」とお話された。体調のよい日は通院以外にも近所を少し散歩されているとのこと。

品川区在住のTさんは、「いつも三宅島新報を送ってくれてありがとうございます。励みになります」とお話を頂き、後日訪問することを伝えた。訪問活動以外にも、このようなふれあいコー

ルを定期的に言い、在京島民の方との情報交換を行っていききたい。稲城市を担当しているDTPAでは、5月30日と6月12日に町田市の都営住宅に住んでいるAさん

宅を訪問した。訪問の際には、夏本番に備えて、高い位置にあるために危険なエアコンのフィルター掃除を手伝った。その後、近所のスーパーまで買い物に行き、ペットボトル飲料

ふるさとネット 09年決算・10年予算

【収入の部】

科目	予算	決算	10年度予算案
寄付金	600,000	805,140	550,000
活動収入	200,000	132,912	100,000
雑収入	40,000	145	10,000
前期繰越金	148,479	148,479	296,659
収入合計	988,479	1086,676	956,659

【支出の部】

科目	予算	決算	10年度予算案
新報費	550,000	517,220	550,000
訪問活動費	10,000	5,780	10,000
活動費	150,000	97,146	150,000
会議費	35,000	37,600	40,000
事務備品費	20,000	32,346	30,000
通信費	125,000	66,670	100,000
渉外費	80,000	32,105	70,000
雑支出	18,479	1,150	6,659
支出合計	988,479	790,017	956,659
次期繰越金	0	296,659	0

編集後記

あおぞら市への参加は4回目を迎え、お客さんに定着してきました。今回もたくさんのお土産を売ることができ、三宅島のよいPRになりました。

た。訪問活動もさらに未帰島者のニーズに合わせて行えるようにしたいです。8月には三宅島も訪問するので、島内の問題にも目を向けていきます。(DTPA一同)

訪問活動ふれあいコール

島と在京島民との懸け橋に